

# 「TEAM NATM」の取り組み

様式2



企画技術総室 技術管理課  
副主査 齋藤太一

## ～自ら計画し自ら学ぶ新たな勉強会の提案～

### 1. はじめに

#### ■ 「TEAM NATM」とは・・・

近年の復興予算等の増大に伴う業務量の増加により、若手技術職員の十分な育成が難しく、**技術力の継承が大きな課題**となっている。

当総室は、現場を所管していないためそれらを訪れる機会は少ないが、一方、工事の仕様や基準、積算制度等を設計・管理・指導する役割を担っており、現場サイドの状況や認識等を十分に理解して業務を遂行する必要がある。

「TEAM NATM」は、上述の背景を鑑み、当総室職員(7名)が現場を担当していなくとも、**現場監督力を含む技術力の醸成を目指し**、本年度から始めた**小集団活動的**な勉強会である。

#### ■ 「TEAM NATM」の目的

技術管理課にトンネル工に関する経験豊富な職員がいたことから、学習の対象を主にトンネル技術とし、勉強会の目的を「**技術公務員に求められるトンネル技術力の習得を目指す**」とした。



八木沢トンネル



三森2号トンネル



現場研修の状況



講師による指導状況

### 2. 活動実績

月に1回開催し、年間を通して計10回(予定含み)実施した。

#### ■ 座学研修【計6回】

講師が当初設計における留意点(地山分類・支保パターンの決定方法など)から、情報化施工結果による変更設計の応用的なノウハウ(切羽観察、坑口部区間の決定方法など)までの講義を行い、トンネル工の**設計から施工までのポイントを学んだ。**

#### ■ 現場研修【計4回】

担当事務所(相双建設事務所及び県中建設事務所)の協力をいただき、2つの現場で継続的に現場研修を実施したことで、**座学で得た知識と実際の現場施工との相違点や助言後の改善点等を気づく目を鍛えることができた。**

#### <TEAM NATMの活動実績及び予定>

回数	実施日	形態	実施内容
第1回	5月27日	座学	トンネル基礎講座
第2回	6月16日	座学	トンネル基礎講座
第3回	7月9日	現場	現場研修(八木沢トンネル)
第4回	8月22日	座学	各自のレポート報告、トンネル基礎講座
第5回	9月3日	現場	現場研修(三森2号トンネル)
第6回	10月10日	現場	現場研修(八木沢トンネル)
第7回	11月25日	現場	現場研修(三森2号トンネル)
第8回	12月5日	座学	各自の発表
第9回	2月(予定)	座学	トンネル専門技術委員会の見学
第10回	3月(予定)	座学	勉強会の総括 他

### 3. 勉強会の特徴

#### ① 自分達に足りないものを補う

- ・当総室は現場を有していない一方、現場が用いる基準や仕組みを作っており、現場監督員に必要な知識の習得が必要である。

#### ② 専門性を有した講師がいた

- ・トンネル工に関する専門知識と経験がある講師と一緒に研修を行うことで、受講生の学びの量と質が上がる。

#### ③ 動きやすい体制で行う

- ・少人数で行うことにより、勉強会の日程調整や現場への移動が容易となる。

#### ④ 現場で何を学びたいか自ら考える

- ・何を学びたいかを受講生が事前に考える事で、研修がより有意義になる。
- ・施工者との意思疎通が円滑になる。

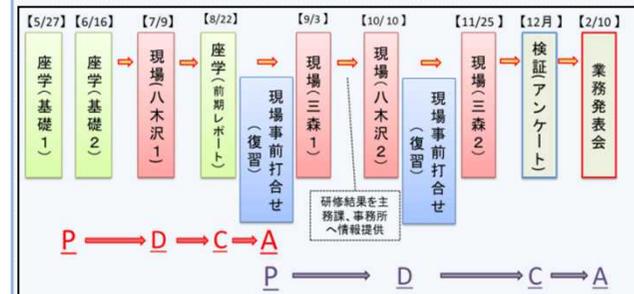
#### <施工者への質疑状況>



#### ⑤ 事業マネジメント能力の習得

- ・継続的に勉強会を実施し、予習⇒現場見学⇒復習／提言を順に行うことで、PDCAサイクルの実践となる。

#### <勉強会の実施サイクル>



### 4. 実施方法の検証

※本勉強会は初めてのころみであるため、研修後に受講生、発注者、施工者へのアンケートをとり、実施方法の検証を行った。

#### ■ 勉強会開催の是非について

- ・**受講生**: 次年度も当勉強会を継続すべきである。
- ・**発注者**: トンネルに携わる機会が少ないので、良い取り組みと思う。



次年度以降も継続すべき、**有意義な活動**である。

#### ■ 協力体制の構築について

- ・**受講生**: 発注者との「認識の共有」が不十分だった。
- ・**発注者**: 事務所の若手も同席出来ればよい。



発注者と施工者に対し事前に実施内容の説明を丁寧に行い、**勉強会の目的を共有することが必要である。**

#### ■ 発注者・施工者の負担軽減について

- ・**発注者**: 業務負担について考慮してほしい。
- ・**施工者**: 資料準備に12時間要した。当日は現場作業を1時間休止。



資料印刷などは受講者が行うなど、**施工者の負担軽減に配慮が必要**である。

### 5. 今後の展望

「TEAM NATM」は、以上の様に「**自ら計画し自ら学ぶ新たな勉強会**」として受講者が継続して主体的に関わることで、効果的に成果を上げることができたと思う。また、若干の反省点はあるものの「技術伝承」に加え「自己研鑽」の観点からも有用なモデルケースとなりうる事がわかった。今後もこの勉強会を継続するとともに、共感していただける同士の増やすことで**部内での水平展開を期待したい。**